

日蓮大聖人御書全集

どうみようぜんもんごしよ

道妙禪門御書

新版
1713

どうみようぜんもんごしよ
道妙禅門御書

けんじ ねん がつ にち さい どうみよう
建治 2 年 ('76) 8 月 10 日 55 歳 道妙

ごしんぷきとう

うけたまわ そうろう

ぶつぜん きねんもう

御親父祈禱のこと 承り候あいだ、仏前にて祈念申す

そうろう きとう

けんきけんおう

けんきみようおう

みようき

べく候。祈禱においては顕祈顕応・顕祈冥応・冥祈

みようおう

みようきけんおう

きとうあ

かんよう

冥応・冥祈顕応の祈禱有りといえども、ただ肝要は、この

きよう

しんじん

いた

たま

そうら

げんとう

しょうん

まんぞく

経の信心を致し給い候わば、現当の所願、満足あるべく

そうろう

ほつけだいさん

い

ま

まみんあ

みな

候。法華第三に云わく「魔および魔民有りといえども、皆

ぶつぼう

まも

だいしち

い

やまい

すなわ

しょうめつ

ふろう

仏法を護らん」。第七に云わく「病は即ち消滅して、不老

ふし

きんげん

うたが

不死ならん」との金言、これを疑うべからず。

みよういちあまごぜん

とうざんさんけいあ

がた

そうろう

まきものいつかん

妙一尼御前、当山参詣有り難く候。卷物一卷、これを

まい

そうろう

ひけんあ

そうろう

なんみようほうれんげきよう

進らせ候。披見有るべく候。南無妙法蓮華經。

けんじにねんひのえねはちがつとおか

にちれん

かおう

建治二年丙子八月十日

日蓮

花押

どうみようぜんもん

道妙禅門